

令和8年度 学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業（ユニバーサル公演）
出演希望調書 No.1（共通）

オレンジ色

入力必須項目です。

みどり色

選択必須項目です。

制作団体名	公益財団法人現代人形劇センター
公演団体名	デフ・パペットシアター・ひとみ

分野・種目

※応募する企画の主たる分野・種目を1つ選択してください。

分野・種目については、募集要領4ページを御参照ください。

分野	種目
演劇	児童劇・演劇・ミュージカル

取り組み（②に該当する場合は○を付してください。）

該当	取り組み
<input type="radio"/>	①字幕や音声ガイダンス等を設置するだけでなく、障害のある子供たちも主体的に芸術鑑賞・体験ができるよう工夫された取り組み
<input type="radio"/>	②障害のある芸術家が活躍する取り組み

②に該当する場合、芸術家が抱える障害の種類

聴覚障害

※採択を受けた場合、実施へ向けた調整に当たり、参考とさせていただきます。

応募する区分

該当	区分
<input type="radio"/>	《Pタイプ》 公演を中心とする企画
	《Wタイプ》 ワークショップを中心とする企画 ※ ワークショップの一環として実演を披露するものを含みます。

実施可能期間 ※原則として令和8年6月1日（月）～令和9年1月29日（金）まで

実施可能期間	×	全期間：令和8年6月1日 ～ 令和9年1月29日 ※夏休み、年末年始を除く			
	令和8年6月	～	令和8年7月	令和8年9月	～ 令和8年12月
		～		～	
		～		～	
連日公演の可否		可	←選択してください。		

実施可能地域 ※実施可能な地域名の前に○を付してください。（複数選択可）

該当	地域	都道府県	都道府県を限定される場合はこちらに御入力ください。
○	限定なし		
	北海道	北海道	
	東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島	
	南関東	埼玉、千葉、東京、神奈川	
	北関東・甲信	茨城、栃木、群馬、山梨、長野	
	北陸	新潟、富山、石川、福井	
	東海	岐阜、静岡、愛知、三重	
	近畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	
	中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口	
	四国	徳島、香川、愛媛、高知	
	九州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島	
	沖縄	沖縄	

団体の概要

【制作団体について】

ふりがな	こうえきざいだんほうじんげんだいにんぎょうげきせんたー		
制作団体名	公益財団法人現代人形劇センター		
代表者職／氏名	理事長／築瀬恵子		
制作団体所在地	〒 211-0035		
	神奈川県川崎市中原区井田3-10-31		
制作団体代表電話番号	044-777-2228		
制作団体設立年月	1969	年	4 月
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	代表理事：築瀬恵子 業務執行理事：塚田千恵美	理事：7名/評議員：7名/監事：1名 職員：9名	
事務体制：事務（制作専任担当者の有無）		他の業務と兼任	
Webサイト等URL	http://www.puppet.or.jp/		
本事業担当者名	吉村衣世	本件連絡先：電話番号	044-777-2228
メールアドレス	iyo.yoshimura@puppet.or.jp		
経理処理等の監査担当の有無		有	
経理責任者名	菅原真弓		

【公演団体について】

ふりがな	でふ・ぱべつとしあたー・ひとみ
公演団体名	デフ・パペットシアター・ひとみ
代表者職／氏名	代表／榎本トオル
Webサイト等URL	http://www.deaf.puppet.or.jp/

特別支援学校等における活動実績や障害を持った芸術家の活動を広げる公演等の活動実績

デフ・パペットシアター・ひとみはろう者と聴者が一緒に活動をしている専門人形劇団です。

1980年の立上げ以来、ろう者と聴者、違いを持つ者どうしが互いの感性を活かしあう、新しい人形表現を探求しています。

また、耳の聞こえや世代を問わず幅広いお客様に楽しんでもらえる人形劇の創作、および多様なお客様が一堂に会することのできる観劇空間の創出にも取り組んでいます。

①特別支援学校での活動実績

2014年度 6 校で公演、ワークショップ

2015年度 14 校で公演、ワークショップ

2016年度 4 校で公演、ワークショップ

2017年度 16 校で公演、ワークショップ

2018年度 15 校で公演、ワークショップ

2019年度 13 校で公演、ワークショップ

2020年度 1 校で公演、ワークショップ

2021年度 4 校で公演、ワークショップ

2022年度 10 校で公演、ワークショップ

2023年度 8 校で公演、ワークショップ

2024年度 10校で公演、ワークショップ

2025年度 17校で公演、ワークショップ（予定）

言語に頼らない人形劇表現の強みを活かし、対象となる子供たちに合わせて柔軟に対応しながら公演やワークショップを実施しています。

また、全国各地での一般公演・ワークショップも数多く実施しており、地域の福祉団体・障害者支援団体の協力のもと、特別支援学校に通う子供たちに学校外でも参加してもらう機会を作っています。

②障がいをもったアーティストの活動を広げる公演等の活動実績

40年以上にわたって、ろう者と聴者が一緒に活動をしている劇団です。ここ10年間では、文化庁「巡回公演事業」の委託を受けて、例年10校ほどの学校で公演をしているほか、全国各地の実行委員会※が主催する上演もしています。実行委員会の主催公演では約650地域での実績があり、ろう者と聴者の協働による表現の可能性を全国各地で発信しています。

※実行委員会は、地域の福祉・障害者支援・文化活動・子育て支援等の多様な活動団体で組織されています。

【受賞歴】

第8回デフ・パントマイムフェスティバル(チェコスロバキア)審査員賞/厚生省中央児童福祉審議会昭和59年推薦文化財指定/国際アビリンピック（香港）舞台芸術部門銀賞・最高アイデア賞/『児童福祉文化賞』財団法人 朝日生命厚生事業団/厚生省中央児童福祉審議会平成4年度推薦文化財指定/厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財指定（2作品）/『読売福祉文化賞 一般部門』社会福祉法人 読売光と愛の事業団

また①でも触れたように、ろうの子供たちに向けた公演やワークショップを広く実施することで、ろう者が聴者と協働しながら表現活動を行うロールモデルのひとつとしても発信を続けています。



令和8年度 学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業（ユニバーサル公演）

出演希望調書 No.2（Pタイプ）

オレンジ色



入力必須項目です。

みどり色

選択必須項目です。

制作団体名	公益財団法人現代人形劇センター					
企画名	ろう者と聴者の人形劇「河の童-かわのわっぱ-」					
主な対象学年 <small>※複数選択は可能ですが企画内容と趣旨が異なるようお願いいたします。</small>	<input type="checkbox"/>	小学校：低学年	<input type="checkbox"/>	小学校：中学年	<input type="checkbox"/>	小学校：高学年
	<input type="checkbox"/>	中学校・中等教育学校（前期課程）				
	<input type="checkbox"/>	特別支援：小学部	<input type="checkbox"/>	特別支援：中学部	<input type="checkbox"/>	特別支援：高等部
児童・生徒の鑑賞・体験可能人数の目安	1回の人数		回数			
ワークショップ ※3回まで	30人程度		1			
本公演 ※1校1回まで	200人程度		まで対応可			
企画の動画等の資料	PW					
URL	https://www.youtube.com/watch?v=sf0SyBu7WMA&t=193s					

本公演について

主な演目	人形劇「河の童-かわのわっぱ-」	
原作／作曲	火野葦平「河童曼陀羅」	
脚本	立山 ひろみ	
演出／振付等	演出／立山ひろみ 作曲／佐藤望 人形美術／本川東洋子	
公演時間 (分)	著作権	<input type="checkbox"/> 制作団体が所有
		<input type="checkbox"/> 制作団体以外が所有する事項が含まれる
60分		<input type="checkbox"/> (制作団体以外が所有する事項が含まれる場合) 許諾の有無
<p style="text-align: center;">あらすじ</p> <p>河童はのんびりくらしています。井戸の中で、こいやげんごろう、かになんかと一緒に、ゆったり、ゆらゆら。そんな河童のことを、にんげんたちはあまり良く思っていないようです。だから河童の方も、なるべく会わないようにしています。でもにんげんの小さいの、こどもと遊ぶのは大好きなので、たまに相手をしてやります。</p> <p>あるとき、村に雨が降らなくなりました。</p> <p>にんげんたちは、それを河童のたたきだと考えて――。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		

手話×映像×文字×身体×生演奏 目で見て楽しむ人形劇

ろう者の視覚的な感性を多く取り入れた人形劇。2017年の初演以来、全国の学校や会館で親しまれている作品です。

劇中ではほとんど台詞を使わず、一部台詞のある箇所では手話を併用します。

その他にも、プロジェクターによる投影や「めくり」の使用、舞踏やマイムのような身体表現、舞台上での生演奏など、目で見て楽しめる仕掛けをたくさん盛り込みました。

耳のきこえを問わないことはもちろん、説明的な筋立てが苦手な方や、お芝居を通じて非日常的な世界を体感したい方にも、幅広くお楽しみいただけます。（作品詳細別添「公演のようす」参照）

演目概要



公演従事予定者の編成
(1公演あたり)

出演者：6名
照明スタッフ：1名
運搬トラック運転手：1名（合計8名）※手話通訳者2名追加場合があります。

公演に当たり必要な会場条件

・舞台の設置場所 教室 ○ 体育館
・舞台に必要な広さ 間口12m×奥行6m
・電源容量（主幹ブレーカー容量） 20 A
・暗転の要否 ○ 要 不要
・その他
完全暗転は必須ではありませんが、照明効果を高めるため必要に応じ暗幕を使用します。

会場設営の所要時間
(タイムスケジュール)の目安

前日仕込み	無	会場設営の所要時間		3.5	時間程度	
到着	仕込み（開始・終了）	本公演（開始・終了）		内休憩	撤去（開始・終了）	退出
8:00	8:00 11:30	13:00 14:25	0:00	15:00 17:30	18:00	
ワークショップ同日開催の場合は、30分前倒して 11:00～ 30分位で対応						

派遣について

移動方法の制約等 なし
運搬規模 3tトラック1台

ワークショップについて

内容

「あやかし」をつくってみよう／うごかしてみよう



※公演の前日までに1回（90分）。

可能であれば当日にもリハーサルを実施します。

新聞紙や端切れなど柔らかい素材で「あやかし」をつくり操演します。

一般に知られる妖怪のイメージに縛られず、自由に造形します。

創作過程で偶然に生まれた形や動きも取り入れていけば、思いもよらない

「あやかし」が生まれます。本公演中の一場で、子ども達にそれぞれ

自作の「あやかし」を操演してもらいます。

①メンバー紹介

②アイスブレイク・ゲーム（かんたんな手遊びなど）

子どもたちが存分にワークショップを楽しめるよう、かんたんなゲームで心と体をリラックス。

③見本人形のパフォーマンス

「自由に作ろう」と言われても意外と難しいもので、
どうすればいいか分からなくなってしまうこともあります。
いろんな形の「あやかし人形」が実際に動いている姿を
みてもらい、子どもたちの想像力をサポートします。

④人形を作ってみよう（ここからはグループワークです）

材料は新聞紙、リボン、端切れ……なんの変哲もない
素材たちが、みるみる面白い形になっていきます。
大きくても小さくても、どんな見た目でもだいじょうぶ。
世界にひとつ、自分だけの「あやかし」をつくりましょう。



⑤人形を動かしてみよう

この「あやかし」はどんな動きをするんだろう。歩くのか、泳ぐのか、あるいはじっとしているのが得意な
「あやかし」もいるかもしれません。どんな動かし方がよいか、講師も一緒に考えます。
あやかしはしゃべりませんが、「うごき」で気持ちも伝えられるでしょうか。

⑥発表の練習をしよう

自分のつくったあやかしを、みんなに披露する練習です。立ち位置や順番の確認をします。

（WS詳細は別添「事前ワークショップ あやかしをつくってみよう/動かしてみよう」参照）

体制

主指導者1名、補助者5名の6名体制で行います。

主指導者が主に作品の概要や「あやかし」の作り方・遣い方を説明し、それを踏まえてワークショップに取り組む子ども達がのびのびと製作・操演できるよう、補助者がサポートします。

また、状況にあわせて手話通訳者が常同する場合があります。

目的とする効果
<p>本公演中に登場する「あやかし」である河童の人形は、石や枝を組み合わせたような造形をしています。きっと昔の人たちは、生活を取りまく自然界の複雑な形のなかに「あやかし」の姿を想像したのでしょう。</p> <p>ふとした瞬間に野山の石や枝、流れる雲の形が生き物に見えるように、形のはっきりしない素材を触っているうちに、それらが息づいて見えてくることがあります。このワークショップでは、ものに命が宿るという感覚を子どもたち自らが体験することで、人形劇の表現に親しむと同時に、作品世界への理解を深めることができます。また、劇中で子どもたちが手作りの「あやかし」を持って登場することで、操演する子どもたち、それを見ている子どもたち双方にとって、作品世界がより身近なものとして体感されます。</p>

企画全体について

当ユニバーサル公演を実施されるにあたり重点を置くポイントや工夫、対応について御入力ください。

企画のねらい		
<p>デフ・パペットシアター・ひとみでは、ろう者と聴者が一緒に人形劇を創作・上演しています。申請作品「河の童」は音声言語、手話言語の使用を最小限に抑えた演出により、耳の聞こえや学習レベルの差を問わず、多様な特性を持つ子どもたちが直感的に楽しむことができます。一方で、河童と人間とのドラマを通じ、自分ではない誰かと共に生きてゆくことについて思いを寄せられる作品でもあります。鑑賞後、劇中の出来事について子どもたちが意見を出しあい、お互いが見たもの、考えたことを共有することで、より深い学びに繋がります。</p>		
障害のある子供たちに鑑賞・体験してもらうために取り組む工夫		
<input type="radio"/>	視覚障害	
<p>上演前に人形や衣装、舞台美術、楽器等に触れてもらいます。また、舞台模型を用いて舞台全体のスケール感や質感を感じていただけます。</p>		
<input type="radio"/>	聴覚障害	
<p>ろう者の視覚的な感性を多く取り入れた作品なので、劇中ではほとんど台詞を使わず、一部台詞のある箇所では手話を併用します。その他にも、プロジェクターによる投影や「めくり」の使用、舞踏やマイムのような身体表現、舞台上での生演奏など、目で見えて楽しめる仕掛けをたくさん盛り込んだ作品です。</p>		
<input type="radio"/>	肢体不自由	
<p>上演前後に人形や衣装、舞台美術、楽器等を近くで見てもらいます。事前に担当の先生との打ち合わせを行い、個別で対応を行います。</p>		
<input type="radio"/>	病弱	
<p>事前に担当の先生との打ち合わせを行い、個別で対応を行います。</p>		
<input type="radio"/>	知的障害	
<p>リラックスのできる環境を事前にヒアリングし、個別で対応を行います。ワークショップは多様な児童を想定し、柔軟に扱いやすい素材を中心に使用します。</p>		
<input type="radio"/>	その他	
<p>事前の資料共有などで不安を取り除きます。</p>		
協力・連携機関及び団体内における専門員の配置等及び団体内における専門員の配置等		
<p>特別支援学校での上演・ワークショップ経験の豊かな劇団員が複数在籍しています。聴者の劇団員の多くは手話を用いたコミュニケーションが可能であるのに加えて、専門の手話通訳者を配置することで、ろう者⇄聴者相互のコミュニケーションをより活発にします。また、各学校の先生方との情報共有を密に行い、実際にどのような子どもたちが居るのか、細やかに把握し柔軟に対応します。</p>		



～ろう者と聴者が共につくる人形劇団～

デフ・パペットシアター・ひとみ

デフ・パペットシアター・ひとみは、耳の聞こえない人（ろう者）と、聞こえる人（聴者）が、お互いの感性を活かしあって創作活動をしている専門人形劇団です。

1980年に現代人形劇センターで企画・結成。今年、結成から45年目を迎えます。

デフ・パペットシアター・ひとみの特徴 ～誰でも楽しめる、視覚的でダイナミックな舞台～



デフ・パペットシアター・ひとみの人形劇は、セリフをまったく使わない無言劇、手話・音声・スライド・プラカード・映像を駆使してセリフを表現したもの、パントマイム・神楽・日本舞踊・京劇を取り入れたものなど、手法の試みもりだくさんです。特に、音声言語に頼らないろう者が参加しているからこそその視覚的表現、人形と人間俳優とが同次元に立って繰り広げるダイナミックな表現は、言語の壁を越えて海外でも大きな反響を呼んでいます。



ワークショップについて

誰でも参加できます

舞台作品と同様、聞こえる方も聞こえない方も子どもも大人も障害の有無も一切問いません。どなたでもご参加いただけます。同時に、あらゆる違いを越えて一緒に遊びながら、創造性や協調性を育みます。

発見し創造し表す力を育てます

特定言語に依存しない分、普段は持つことのない角度をから物事を見たり、言葉の持つさまざまな力を味わったりします。そこから生まれるのは思いもよらぬ創造。遊びを通して、新たな自分に出会えるかもしれません。

手話の魅力に触れられます

これまで手話と接したことのない方も、遊びを通して手話に親しみ、その魅力を感じていただけます。



ワークショップは、ろう者と聴者の講師が一緒に進めていきます。
ゲームを通して、手話に触れてもらいます。

デフ・パペットシアター・ひとみ代表 榎本トオル
人形劇俳優。山形聾学校出身

事前ワークショップ

「あやかしを作ってみよう/動かしてみよう」

講師の自己紹介

ろう者・聴者講師のそれぞれのサインネーム
(手話の名前) も紹介します



アイスブレイク

講師のまねをするゲームなどの遊びを通して、ノンバーバルな表現に慣れていきます



素材から自由に発想しよう！

私たちがいつも人形劇を演じる時は、人形の持つ個性や素材の特徴を大切にしながら演じています。ワークショップでは、色とりどりの、さまざまな感触の素材を使います。好きな素材を選んで、風のよように動かしてみたり、ぐしゃぐしゃにしたり等、素材の持つ特徴からアイデアを広げます。



講師による見本人形パフォーマンス

児童のみなさんの近くまで行って、いろいろなあやかしのアイデアを見てもらいます



風のイメージ、海のイメージなど、講師の身体の動きに合わせて、選んだ素材を動かします

つくってみよう！うごかしてみよう！

正解はありません。自由に発想して世界に1つだけのあやかし作ってみます。
作ったあやかしを実際に動かしてみましょう！

ねじってみると面白い！



持って走ると浮いたよ！
空を飛べるあやかしができた！？

このあやかしはどこに住んでるのかな？
どうやって動く？などお話をしながら
作ったあやかしを動かしてみます



本公演で発表！

本公演中の一場で、ワークショップに参加した子どもたちが、自身が作った「あやかし」を操演します。
舞台上は段差がなく、講師のサポートがあるので障害の有無にかかわらず参加していただけます。



～先生からのご感想～

- ・講師の皆様が優しくサポートしてくださったので、安心して取り組むことができました。
- ・普段は表現をすることが苦手な児童も、発表では作った人形を得意げに動かしていて、いつもと違う一面を見ることができました。

公演のように



いつもの体育館が劇場に変身！



作品の舞台美術を生かした映像や字幕



舞台上での生演奏



人形と俳優が一体となり、想像力をかきたてる舞台です

【令和8年度学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業－ユニバーサル公演－実施条件等確認書（No.1）】

ID *	UNI8_07	企画名	ろう者と聴者の人形劇「河の童-かわのわっぱ-」		
制作団体名	公益財団法人現代人形劇センター		公演団体名	デフ・パペットシアター・ひとみ	

① 会場条件等についての確認

項目		必要条件等						応相談	
控室について		必要数 *	1室	条件		昼食・着替えのため。可能なら。			可
前日仕込みについて *			あり	補足		可能なら。			可
搬入について	来校する車両の大きさと台数 *			2 tトラック		バン	1台		
	上記車両について「応相談可」の場合、内容詳細			学校の立地条件や前後旅程に鑑みます。					
	来校する車両の内、横づけが必要な車両の大きさ			6.5m				可	
	搬入車両の横づけの要否 *			要				可	
	横づけができない場合の搬入可能距離 *			30m以内				可	
	搬入経路の最低条件			雨を避けられること				不可	
	理由			演具の水濡れ防止のため					
	設置階の制限 *			エレベーターのない場合は2階まで				可	
	搬入間口について 単位：メートル	幅	1m	高さ	1.8m	不可			
会場設営について	舞台設置場所 *			フロア				可	
	舞台設置に必要な広さ 単位：メートル	幅	16m	奥行	7m	高さ	3.7m	可	
	体育館の舞台を使用 する場合の条件	舞台袖スペースの確保 *			不要			可	
		舞台袖スペースの条件 *						可	
		緞帳 *	不要		バトン *	不要		可	
	遮光(暗幕等)の要否 *		要	理由	可能なら。照明効果のため。			可	
	ピアノの調律・移動の要否 (調律費・移動費は 経費対象外です)	指定位置へのピアノの移動 *		不要	※指定位置は会場設置図面 にて御確認ください。			可	
		ピアノの事前調律 *		不要			可		
	フロアを使用する場合の 条件	バスケットゴールの設置状況 *		舞台設置エリアに下りていないこと			可		
	公演に必要な電源容量		35A	※主幹電源の必要容量			不可		
	その他特記事項							応相談	

②会場図面(表記単位：メートル)

搬入間口について	幅	1	高さ	1.8
搬入車両の横づけの可否		要		
横づけができない場合の搬入可能距離		30m以内		

※搬入に関する条件の詳細については、図面上の表にて御確認ください。

